

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録（2014.12）平成25年度:20.

PET-CT における事前連絡に対する患者ニーズ

山口 希美, 中村 智美

PET-CT における事前連絡に対する患者ニーズ

旭川医科大学病院 看護部 山口 希美、中村 智美

【目的】

A 医科大学病院核医学検査室では、PET-CT に使用する薬剤 (^{18}F -FDG) がデリバリーであり、高価かつ保存ができないという理由から、看護師が検査前日に、患者へ電話で連絡（以下「事前連絡」とする）をしている。これまで看護師は、事前連絡で様々な問題を解決できたと考えていたが、事前連絡に対する患者ニーズが把握されていないことが浮き彫りとなっていた。また、事前連絡に関する先行研究はなかった。そこで、PET-CT を受ける患者の事前連絡に対するニーズを明らかにし、患者が望む事前連絡について検討する。

【方法】

2013年2月5日～2月28日の期間にPET-CTを受けた患者で、本人に直接事前連絡できた外来患者を対象に、事前連絡のニーズについて質問紙を用いた調査研究を行った。質問紙は独自に作成した。分析は、データ全体を記述統計し、全体的なニーズの傾向を明らかにした。次に、患者背景（年齢、疾患、検査経験の有無、血糖降下剤使用の有無）によりグループ化し、グループによってニーズに違いがあるかをクロス集計し検討した。

倫理的配慮として、対象者へ、本研究の目的と方法、協力は自由意思によること、収集した情報は個人が特定されないよう匿名にてデータ化すること、協力の可否による不利益は生じないこと、協力の中止がいつでもできること、データは研究終了後に破棄することを口頭と書面で説明し、書面にて同意を得た。尚、本研究はA医科大学病院倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

60名に質問紙を配布し59名の回答を得た（回収率98.3%）。平均年齢は61.98歳（SD14.12）だった。PET-

CT経験有は32名（54.2%）で、平均経験回数は2.78回だった。悪性腫瘍は53名（90.0%）だった。今後も事前連絡が必要と答えたのは56名（95.0%）だった。理由は「安心できるから」40名、「検査を忘れそうだから」20名だった。不必要と答えたのは3名で、全員が悪性腫瘍群、平均年齢は48.0歳、平均経験回数は4.0回だった。理由は「検査への不安がないから」1名、「説明が重複しているから」1名だった。他に聞きたいことがあると答えたのは0名だった。

【考察】

背景にかかわらず、ほとんどの患者が事前連絡を必要としており、事前連絡の内容は患者ニーズに合致していた。看護師が事前連絡することで、患者は検査への不安を解消することがわかった。また、事前連絡の必要性を感じていない患者は、年齢が若く、何度もPET-CTを経験しているという共通点があった。しかし、同じような背景で事前連絡を必要と感じている患者もおり、今まで通り全例へ事前連絡を実施すべきであることが示唆された。

【結語】

PET-CT検査において、患者は事前連絡を必要としており、事前連絡によって不安を解消している。看護師は、今後も全例に事前連絡を実施し、患者背景を考慮した説明を心掛ける必要がある。